

盛り上がる新興国のクリスマス商戦

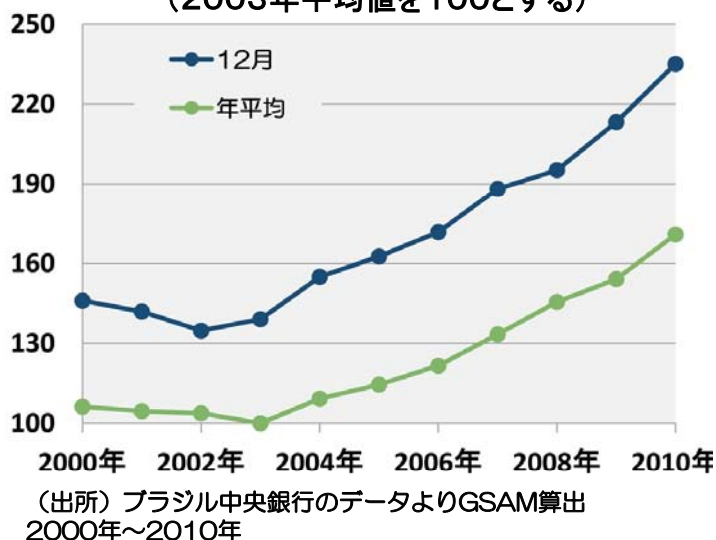
12月も中盤となり、今年も米国のクリスマス商戦の話題が聞こえてきましたが、経済成長の著しい新興国でもクリスマス消費が盛り上がりを見せているようです。

国民の9割がキリスト教徒であるブラジルでは、クリスマス休暇を故郷で家族と過ごすため、都市部に住んでいる人々の帰省ラッシュが起こります。サンパウロにある南米最大のバスターミナルは、多くのお土産を買いこんだ人々で大混雑となり臨時ダイヤも増発されるなど、この時期は帰省やプレゼントの購入などで個人消費が一気に高まります。さらに近年では購買力を付けた中間所得層の増大により小売売上高は右肩上がり。12月はいっそう高まりを見せ、2010年は2002年と比較して約74%増加しました。

また、東南アジア最大のカトリック教国であるフィリピンでも、クリスマスは一大イベントです。毎年9月からクリスマスの準備が行われ、この期間は個人消費支出が一年で最も増えます。さらに所得の向上により個人消費は増加傾向にあり、近年では各国がフィリピンの消費力に注目をし始めています。

クリスマス商戦は、欧米のみならず新興国の動向からも目が離せません。

ブラジルの小売売上高指数推移
(2003年平均値を100とする)



(単位: 兆ペソ) フィリピンの個人消費支出額

